

飛脚制度と郵政民営化

昨年の通常国会は、「年金国会」と呼ばれましたが、今年の通常国会は、まさに「郵政民営化国会」となりました。例年ですと6月中旬、若しくは、会期が延長されても7月初旬には国会は閉会しているのですが、今年は、郵政民営化法案の審議のため55日、2ヶ月近くも会期が延長されました。8月のお盆休み直前まで国会が続きます。

その郵政民営化法案（6法案）は、7月4日、衆議院本会議で可決されましたが、ご承知のように、賛成233対反対228、わずか5票差での可決となりました。現在参議院で審議中ですが、どのような展開となるのでしょうか。今年の国会は、ひとしお暑い夏となっています。

ところで、日本の郵便制度は、明治4年、前島密によって創設されました。

明治維新後、前島密は、民部省の郵便司に勤めるようになったことをきっかけに、郵便制度の創設に情熱を燃やしたようです。当時は、まだ、江戸時代のままの飛脚制度が残っていたわけですが、前島は、西洋文明国から手紙が届いても、日本国内の宛先に届けることができず、送り返されてしまうなどの実情に悔しい思いをし、英国に渡って西欧の郵便制度をつぶさに見学、日本に近代的な郵便制度を導入したのです。

飛脚制度の歴史は古く、鎌倉時代には既に実用化されていたそうですが、急速に発達したのは江戸時代。幕府の公用文書などを運ぶ幕府直営の「継飛脚」制度が作られ、また、各藩の国元と江戸屋敷を結んで公用文書などを運ぶ「大名飛脚」がありました。いわば官営の郵便制度です。これに対し1615年、大阪の商人が幕府の許可を得て、民間の文書を運ぶ「町飛脚」が作られました。こちらは民営の郵便制度というわけです。この三者、いずれが江戸大阪間で早く文書を伝えられるか、スピード競争となり、ついには、江戸～京都間を70時間弱で急行するようになったそうです。

町飛脚制度は、五街道を通じて各地に広がり、やがて町飛脚は、毎月2の日に3回走るようになり、また飛脚問屋も増え、次第に整備されて、普及していきました。五街道の起点、江戸日本橋には飛脚問屋が軒を連ねていたそうです。そうすると、飛脚制度の維持が経済的にも負担が大きくなっていた諸大名も町飛脚を利用するようになり、また幕府も利用するようになったとのこと。やはり、「民」の方が商売上手、サービス上手だったのでしょうか。いわば、江戸時代の「郵政民営化」です。

明治4年、前島密の努力で、国の郵便制度ができました。それに合わせ、飛脚制度は廃止されました。ここでは逆に「郵政官営化」が行われ、全国津々浦々に郵便おネットワークが張り巡らされました。しかし、「郵政官営化」、国営郵便制度の誕生に、仕事を奪われた飛脚問屋から反対運動もあったようです。

そして、それから130年経った平成の世。今度は「郵政民営化」で国会も世論も大議論。まさに時の流れ、時代の変遷を感じますね。